



スイカとてんぷらをいっしょに食^たべると、おなかをこわすの

食^くいあわせは、科学的根拠^{かがくてきこんきょ}がない

昔^{むかし}から、ウナギと梅干し^{うめぼし}、氷^{こおり}とてんぷら、スイカとてんぷら、タニシとそばをいっしょに食^たべたりすると、おなかをこわすといわれてきました。

このように、いっしょに食^たべると害^{がい}があるといわれる食^たべ物の組^{もの}みあわせを、「食^くいあわせ」といいます。

実は、食^くいあわせといわれている食^たべ物の組^{もの}みあわせは、科学的根拠^{かがくてきこんきょ}はありません。

昔^{むかし}は、食^{しょく}品^{ひん}を保存^{ほぞん}する方法^{ほうほう}が発達^{はつたつ}していなかったので、たとえば、海^{うみ}のものと山^{やま}のものをいっしょに食^たべたりすると、どちらかがくさってしまっていることが多く、おなかをこわしたからではないか、といわれています。

今^{いま}では、交通機関^{こうつうきかん}が発達^{はつたつ}し、海^{うみ}のものでも、山^{やま}のものでも簡単^{かんたん}に運^{はこ}べ、運^{はこ}んだものは冷蔵^{れいぞう}庫^こに入れて保存^{ほぞん}しておけるので、くさってしまう心配^{しんぱい}がありません。食^くいあわせなど気にしないで、好きなものを食^たべることができます。

「食^くい」のつくことば

<食^くい入^いる> 深^{ふか}く中^{なか}に入りこむこと、くいこむこと。

<食^くい下^さがる> ねばり強^{つよ}く相手^{あいて}にむかっていくこと。

<食^くい足^たりない> 十分^{じゅうぶん}には満足^{まんぞく}できないこと。もの足^たりないこと。

<食^くいつぶす> 遊^{あそ}びく^らして、財^{ざい}産^{さん}をなくすこと。

<食^くいとめる> よくないものごとを防^{ふせ}ぎとめること。 (監修・青木 国夫)

